

授業科目名	現代アート論	担当教員	寺田 卓矢
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3年 第3クォーター		
講義内容	<p>本講義では、現代アート史をたどり、国内外の多様なアーティストとその作品に触れ、その表現が目指すものについて考察するとともに、エポックメイキングなムーブメントや諸概念、現代的課題（ソーシャリー・エンゲージド・アート、アール・ブリュット／アウトサイダー・アート、生成AIとアートなど）を検討する。</p> <p>また、国内外のアート・プロジェクトの歴史の変遷と特徴を論じ、政治・経済・社会との関係を踏まえながら、現代アートの多面的な理解を目指す。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代アートが発展してきた歴史的経緯を理解するとともに、それが孕む可能性と問題点について自ら考察する。 ・日本においてアート・プロジェクトが発展してきた経緯と特徴について理解する。 ・将来アート・マネージャーなどとして、アートの現場に関わる時に必要とされる政治・経済・社会と文化を横断する問題意識を醸成し、それらに対する自分の意見を簡潔に述べるができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション：現代アートとは 2) 現代アート史①：アーティスト、作品、ムーブメント 3) 現代アート史②：同 4) 現代アート史③：同 5) 現代アート史④：同 6) アート・プロジェクト史① 7) アート・プロジェクト史② 8) アート・プロジェクト史③ 9) アート・プロジェクト史④ 10) 現代アートをめぐる諸問題① 11) 現代アートをめぐる諸問題② 12) 最終レポート作成 		
事前・事後学習	次の講義の前に、配布したプリントや参考資料を用いて前回の授業内容を復習すること。		
テキスト	適宜配布する。		

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ブライアン・イーノ、ベッテ・A（浅尾敦則訳）（2026）『アートにできること—その終わりのない思索の旅』ジーン ・山本浩貴（2025）『12ヶ月で学ぶ現代アート入門』美術出版社
成績評価の基準	授業内の発言（20%）、授業内課題（40%）、最終レポート（40%）
履修上の注意 履修要件	特になし
実践的教育	該当しない。
備考欄	定員 50 名を超える場合は抽選とする。